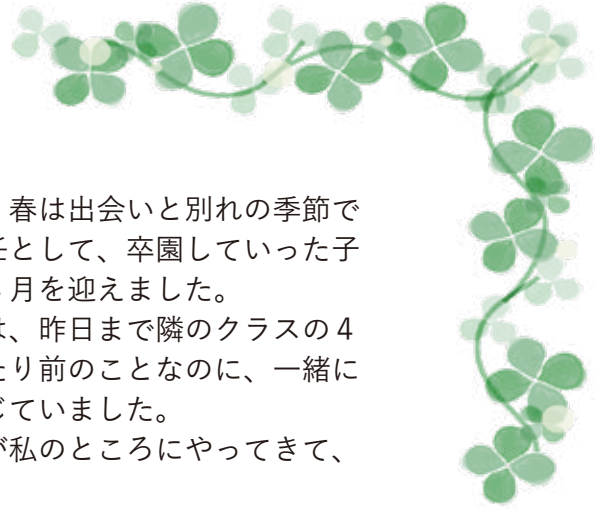




春の色合いが日に日に増していくこの季節。春は出会いと別れの季節ですね。わたしも先月31日にさくらぐみの担任として、卒園していった子どもたちと「またね」と約束を交わし、この4月を迎えました。

1日の朝さくら組の部屋を覗くと、そこには、昨日まで隣のクラスの4歳児だった子どもたちの姿がありました。当たり前のことなのに、一緒に過ごしたあの子たちが居ないことを寂しく感じていました。

そんな時、新しくさくら組になった女の子が私のところにやってきて、声をかけてくれました。

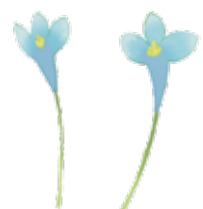
「先生、わたしさくら組さんになったよ。先生は何組さんになったの？」

「先生は何組さんでもないの。だから、みんなのお部屋に入らせてもらおうかなあ。」

そう言うと、その子はニコッと笑い、「いいよ。みんなの先生だね。」と言ってくれたのです。

そうか！わたしは178人、みんなの先生なんだ！とハッとさせられました。そしてこの子たちとの出会いを大切に、「みんなの先生」として、一人ひとりが安心して幸せに過ごすことができる毎日でありますようにと、改めて感じました。「わたしはわたしのままでいい。」「生まれてきて良かった。」と思ってくれるような日々がここにありますように。そしてこれからも、卒園していく子どもたちが、いつでも「ただいま」と帰ってこられる居場所となりますように。

いつでも両手を広げて「おかえり」と待ちたいなあと思えた4月の朝でした。





新入園児の皆さん、武雄こども園によろしく。在園児の皆さん、進級おめでとうございます。今年度は40名の新入園児さんを迎え、その手で遊ぶ子どもたちの姿を見ながらお母さんの木が優しく微笑んでいるように見えます。私たちの原点である園の理念はThe One（園に関わる全ての人と事象が唯一無二）。そして、「あなたがあなたであることを心から喜び合う園」を目指し、今年度も教育・保育に従事して参ります。保護者様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

先日、愛知県より日本知育玩具協会会長である藤田篤氏をお招きして、玩具の研修会を行いました。そこで「愛着」について問われました。例えば、幼い頃どこに行くにも一緒だったお人形。成長するにつれ、そのお人形はお家でお留守番をするようになり、やがてクローゼットに片づけられる。しかし、もう役目を終えたはずのお人形なのに、大人になっても何だか捨てられないのはなぜでしょうか。それは、そのお人形が幼かったあの頃の自分が大切な存在であることを確かめさせてくれるものだから。つまり、お人形へかけた愛情はすなわち自分への愛情そのものだったから、だそう。

今、新しい環境に不安な表情や涙を見せるお子様の姿に、保護者の方も落ち着かないご心境の日々を過ごされていることと思います。お預けになった後、もう涙は止まったかな、ちゃんと遊んでいるかな、とご心配されることがあるかも知れません。涙の意味は、自分が大切な存在であると子どもたちはもう既に知っているということ。そしてその姿は、保護者様の変わらない愛情がもたらしたものに他なりません。

私たちは春の揺らぎの日々のなかで、どこにいらっしゃっても揺るぐことのない保護者様の想いを軸とし、お子様をお迎えして参ります。そして、大人も子どもも自分らしく在ることを大切に、それぞれの輝きを見つけながら、共に育ち合っていきたいと思ひます。